人間万事塞翁が馬

人は一度落ち込むと、その辛さや苦しさが永遠に続くのではないかと思い、ますます辛くなってしまうことがあります。

そんな時に中国、前漢の学者である劉安(りゅうあん)**編の思想書「淮南子**(えなんじ)**」に書かれている「人間万事塞翁が馬」**(にんげんばんじさいおうがうま)**という言葉を思い出してみましょう。**

中国の北の方に占い上手な老人が住んでいました。さらに北には胡(こ)という異民族が住んでいて、国境には城塞がありました。

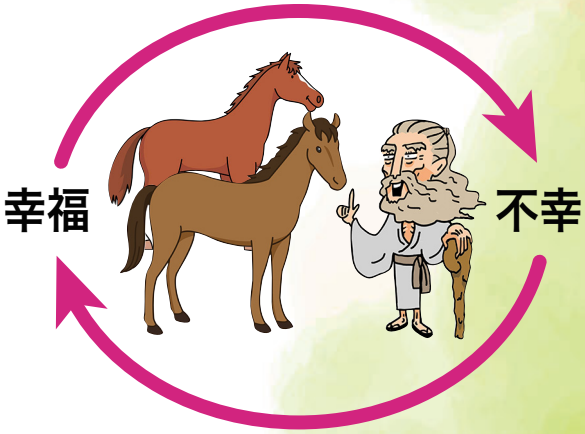
ある時、その老人の馬が北の胡の国の方に逃げていってしまいました。近所の人たちは、この辺の馬は良い馬が多く高く売れるのできっと帰ってこないだろうと、気の毒がって老人をなぐさめに行きました。ところが老人は残念がっている様子もなく、「このことは幸福の訪れ」と予言しました。

そしてしばらく経ったある日、逃げ出した馬が胡の素晴らしい馬をたくさんつれて帰ってきました。そこで近所の人たちが祝福をすると、老人は首を振って「不運の兆しだ」と予言しました。

しばらくすると、老人の息子がその馬から落ちて足の骨を折ってしまいました。近所の人たちがかわいそうに思ってなぐさめに行くと、老人は平然として「このことは幸運の兆しだ」と予言しました。

１年が経ったころ胡の異民族たちが城塞に襲撃してきたので、その近くの若者達はすべて戦争に駆り出されました。何とか胡人から国を守ることができましたが、若者の多くはその戦争で死んでしまいました。

しかし、老人の息子は足を負傷していたので、戦争に行かずにすみ、命を落とすことはありませんでした。



長い人生では楽しい事や嬉しい事もあれば、辛い事や悲しい事もありますが、何が幸福で何が不幸かは直ぐに決まるものではありません。あの辛い出来事があったから、「なにくそ!」と思って頑張ったおかげで今があるという方も多いのではないでしょうか。

嬉しい時には自己を律して、辛い時には将来必ず幸せが訪れるものと信じて、毎日を明るく元気に過ごしていきたいものです。

垣内　イスズ